

“可以”の伝達機能と語用論的特徴

勝川 裕子

DOI: 10.18999/stul.30.111

1. はじめに

以下に挙げる例文はいずれも可能範疇に属する表現であり、例(1)～例(3)は「泳げる」ことを、例(4)～例(6)は「食べられない」ことを表す。例(1)～例(3)では可能を表す助動詞“会/能/可以”が使い分けられており、同じ「泳げる」という事態を表すにも、どういう事由で泳げるのかを表現仕分けている。例(4)～例(6)では可能補語の否定形式が用いられているが、補語次第で幾種もの「食べられない」理由を表現し得る。

- (1) 我会游泳。[私は泳げる。]
- (2) 他能游一千米。[私は1,000メートル泳げる。]
- (3) 这儿可以游泳。[ここは泳げる(泳いでよい)。]
- (4) 我吃不了这么多菜。[私はこんなにたくさんの料理は食べられない。]
- (5) 我吃不起法国菜。[私はフランス料理は(値段が高くて)食べられない。]
- (6) 我吃不惯羊肉。[私は羊の肉は(食べ慣れていないので)食べられない。]

このように、現代中国語の〈可能〉を表わす表現形式としては、主に i) 助動詞“会/能/可以”を用いる形式と、ii) 可能補語“V 得 R/D”(V:動詞、R:結果補語、D:方向補語を表わす)を用いる形式の2タイプが存在するが、i)タイプ内部だけを取り上げても、それぞれの用法が重複しており、また、〈可能〉以外にも〈可能性・蓋然性〉を表すなど、多義性を含むことが指摘されている。また、いずれの表現形式においても肯定文と否定文とでは文法的機能が異なり、使用分布の不均衡が見られる。このように、〈可能〉を表わす文法マーカ―が複数存在し、且つ多義性を有するということは、中国語話者の〈可能〉に対する複雑な認知

パターンを反映していることを示唆している。

同じ文法範疇に属する表現形式が複数ある場合、研究の方向性及び手法としては主に 2 つの方法が考えられる。一つは、異なる表現形式を考察対象とし、それらを対照しながら、それぞれのニュアンスの異同を追究する方法である。例えば、以下の例(7)～例(9)では“能”と“可以”のいずれも用いることができるが、それぞれが含意するニュアンスはやはり異なり、当然のことながら用いられる場面も異なる。

(7) 我明天有空儿，{能/可以}去你家玩儿。

[私は明日暇なので、あなたの家に遊びに行けます。]

(8) 这儿{能/可以}抽烟。[ここは煙草を吸える(吸ってよい)。]

(9) 我也想学包饺子。——我{能/可以}教你。

[私も餃子を作るのを習いたいです。——私が教えてあげますよ。]

もう一つの研究手法としては、同一の表現形式を考察対象とし、その中心的用法と派生用法がどのように結びついているのか、その派生ルートを追究する方法である。例えば、次の例(10ab)ではいずれも“可以”が用いられているが、例(10a)は話し手の聞き手に対する〈許可〉を表しているのに対し、例(10b)は聞き手に対し「彼と相談する」よう促す〈勧め〉を表している。複数ある用法から中核的意義を抽出し、各種用法の異同を明らかにすることで、それぞれを有機的に結びつけることが可能となる。

(10)a 你可以进来。[入ってもいいですよ。]

b 你可以跟他商量一下。[彼と少し相談するといいですよ。]

本稿では後者の研究手法を採用し、助動詞“可以”の中核的意義について再検討した上で、伝達機能の側面から“可以”を類別する。次に、それぞれの伝達機能が何を基盤として結びつき、どのように異なるのかについて、「評価のモダリティ」及び「行為要求」の観点から考察することを通じて、“可以”の語用論的特徴を明らかにしていく。

2. “可以”は「許可されてデキル」?

2.1 教学における可能の助動詞の典型的な導入例

日本の中国語教育では、可能の助動詞としては通常、“会/能/可以”の3つが取り挙げられ、それぞれ<習得可能>、<能力・条件可能>、<許可可能>といったキーワードと共に導入される。“可以”に関していえば、日本人中国語学習者は日本語の「～でもいい」と1対1で対応させ、記憶していく。

①“会”…技能を習得してデキル

e.g. 我会游泳。[私は泳げる。]

②“能”…能力・条件的にデキル

e.g. 我能游一千米。[私は1,000メートル泳げる。]

我感冒已经好了，能游泳了。

[風邪が良くなったので、私は泳げるようになった。]

③“可以”…許可されてデキル

e.g. 这儿可以游泳。[ここは泳げる(泳いでよい)。]

表1 教学における可能の助動詞の導入例

このように、文法項目としての“可以”は第一義的に<許可>義で導入されるのが一般的であるが、次の例(11)のように<許可>では解釈できない表現例も多く存在する。文脈から見れば、例(11)の“你可以住我哥哥家”は「兄の家に泊まる」ことを<許可>するのではなく、「兄の家に泊まる」よう促す<勧め>の用法として解釈するべきであるが、多くの中国語学習者が「私の兄の家に泊まっていいですよ」と訳し、<許可>として捉える傾向にあるなど、学習に躓きがみられる項目になっている。

(11) (帰国予定の劉さんが山本さんを中国へ誘う場面)

刘:那你也一起去, 怎么样? [それなら、あなたも一緒に行きませんか?]

山本:真的? 太好了! [本当ですか? それはいい!]

刘:你可以住我哥哥家。[私の兄の家に泊まったらいいですよ。]

(『中国語つぎへの一步』 p.10)

2.2 助動詞“可以”の辞書記述

“可以”を<許可>で導入しておきながら、同一単元内でそれとは異なる用法を会話文に挙げることに教科書編纂上、問題がないとは言えないが、そもそも<許可>が助動詞“可以”の中核的な意義要素なのかという問題について再検討しなくてはならない。

例えば、助動詞“可以”は、多くの辞書において以下の表 2 のように立項され、記述されている。③の<用途>用法を立項しない辞書も存在する¹ものの、①<可能>、②<許可>、④<価値>の 3 つの意味項目は共通して挙げられている。

①表示可能或能够

e.g. 有两天就可以做完了。[二日もあればやり終えることができる。]

②表示允许

e.g. 我也可以参加吗? [私も参加していいですか?]

③表示有某种用途

e.g. 棉花可以织布, 棉籽还可以榨油。

[綿花からは布を織ることができ、種子からは油をしぼることができる。]

④表示值得(做某事)

e.g. 这栋楼的房子不错, 价钱也不贵, 很可以买。

[このビルの家はなかなか良い。価格も高くないし、買う価値がある。]

表 2 助動詞“可以”の辞書記述

このうち、先に見た例(10b)、例(11)のような<勧め>の用例は、一見、④の<価値>用法に収斂されそうであるが、次の例(12)、例(13)に挙げるように、<価値>用法は通常、客体を主語に据えた属性表現の形で表現され、副詞“很”を伴うことが多い。

(12) 这个问题很可以研究一番。《现代汉语八百词》

[この問題は研究する価値がある。]

¹ 《现代汉语词典》(第 7 版)や『中日大辞典』(第三版)など、③の<用途>用法を立項せず、①の<可能>用法に組み込む辞書も多く存在する。

- (13) 那篇文章写得不错，很可以读一读。《现代汉语词典》(第7版)

[あの文章はなかなか上手く書けているので、読んでみる価値がある。]

一方、『小学館 中日辞典』(第3版)では<示唆・助言を表す>用法として例(14)を挙げており、「“你可以～”の形で聞き手に『やってみたら』と勧めることがある」(p.861)と注を付している(本稿の<勧め>用法に相当)。両用法は共に事態の実現が望ましいとみる話し手の価値判断がベースとなっている点においては類似するものの、前者は「そう判断してよい」とする話し手の認識的な判断を表すのに対し、後者は単なる叙述機能だけでなく、主観的な発話の遂行機能(山梨 1995)が認められる。つまり、例(15)において前半部(a)の“这篇文章可以读一读”は“这篇文章”自体に対する価値判断であるのに対し、後半部(b)の“你也可以看一看”はその文章の価値を認めた上で、聞き手に読むよう促す伝達機能を有しており、両者を同列に論じることはできない。²従って、本稿で取り上げる<勧め>用法は<価値>用法とは異なる用法として扱う。

- (14) 爬山很有意思，你真可以试试。『小学館 中日辞典』(第3版)

[登山は面白いから君もやってみたら。]

- (15) 他也曾经说过，a这篇文章可以读一读，我觉得，b你也可以看一看。

[彼も昔この文章は読む価値があると言っていたし、君も読んでみるといいと思うよ。]

2.3 “可以”の中核的意義

辞書に記されたこれらの用法は、それぞれ独立した意味項目として挙げられているが、やはりその根底には共通する意義素が存在すると考えるのが自然であろう。

「可能」に関する定義については、これまで多くの研究者が様々な定義付けを試みている(寺村 1982、渋谷 1986、森田 1989 等)が、概ね共通する解釈としては「可能とは、何ごとかをする能力があること、または(望ましい)事態が実現すること」と定義することができる。そして「(望ましい)事態の実現」に際し、「実現を阻むもの(バリア)の有無」(山梨 1995)というものを考える場合、「行為者の能力がバリアを通過することだけでなく、「妨げるバリアその

² 武信 1999 にも同様の指摘がみられる。

ものが無い、事態が実現するのに差し支えない」ことも「可能」の一類として捉えられる。

そして、現代中国語では前者を“能”が、後者を“可以”が担っている。例えば、例(16)は“(你)明天再来一趟”という事態の実現を阻むものが存在しない、何ら差し支えないことを表しているのに対し、例(17)では“天这么晚了”といった事態の実現を阻むバリアが存在しており、このバリアを突破するだけの能力(力量や受容力)が行為者に備わっているか否かが問われる状況では、“他能来吗?”が相応しく、“他可以来吗?”は不自然な表現であると判断される。

(16) 你明天可以再来一趟吗? [あなた明日もう一度来られますか?]

(17) 天这么晚了, 他{能/”可以}来吗?

[こんなに遅くなってしまって、彼は来られるだろうか?]

3. “可以”の伝達機能

このように、助動詞“可以”は「事態の実現が容認できること/差し支えないこと」を中核的意義³としているが、このとき、①当該事態を実現する行為者が誰で、②誰が誰の行為を容認するのかを基準に“可以”の伝達機能を類別することができる。

仮に、①の「行為者」を「話し手」と「聞き手」に限定した場合、②の「容認の向き」は次の 3 タイプが想定され、これに基づいて類別される伝達機能としては〈許可〉、〈依頼〉、〈意向〉、〈勧め〉の 4 タイプがみられる。以下、それぞれの伝達機能についてみていく。

- | |
|----------------------------|
| ① 当該事態を実現する行為者: 話し手/聞き手 |
| ② 容認の向き: 話し手⇒聞き手 |
| 聞き手⇒話し手 |
| 話し手⇒話し手 (話し手が自分自身の行為を容認する) |

表 3 行為者の人称と容認の向き

³ 楊凱榮 2011:67 も〈許可〉や〈勧め〉を表す“可以”は「あることを行うのに妨げとなるものが存在しないこと」を聞き手に伝える表現であると指摘している。

3.1 <許可> 行為者:聞き手 容認の向き:話し手→聞き手

行為者:話し手 容認の向き:聞き手→話し手

聞き手と話し手のいずれも行為者になり得る。つまり、例(18b)、例(20)のように、聞き手の行為の実現を話し手が容認することを伝える機能が<許可>であり、例(18a)、例(19)のように、話し手の行為の実現を聞き手に容認するよう要請する<許可>申請もこれに含まれる。<許可>申請は常に質問形式で提示され、聞き手の<許可>を得て初めて、話し手は行為の実現が可能となる。

(18) a 这件衣服, 我可以试试吗?

[この服、試着してもいいですか?]

b (你)当然可以。试衣间在这边儿。

[もちろんいいですよ。試着室はこちらです。]

(19) 我可以休息一会儿吗?

[少し休憩してもいいですか?]

(20) 如果你非要辞职不可, 那你也可以辞职, 但希望在接替的人到来之前, 请你继续干下去。(《哥儿》)

[君が是非辞職すると云うのなら辞職されてもいいから、代りのあるまでどうかやって貰いたい。] (『坊ちゃん』)

3.2 <依頼> 行為者:聞き手 容認の向き:聞き手→話し手

聞き手が行為者となり、(通常、話し手にとって有益な)行為の実現を容認するよう、話し手が要請する場合、その行為の実行を実質的に<依頼>することになる。例えば、例(21)では、話し手は聞き手に対し「あなたが私に日本語を教える」ことを容認するよう求めており、これは伝達機能としては<依頼>に属する。上でみた<許可>申請と同様、<依頼>も常に質問形式で提示され、話し手の<依頼>を聞き手が容認することで、行為の実現が可能となる。例(22)、例(23)も同様に解釈できる。

(21) 我想学日语。你可以教我吗?

[私は日本語を勉強したいのですが、私に教えてくれませんか?]

(22) 白雪灵低下头, 看着自己的脚尖, 半晌说道: “老师, 你可以不可以不要叫我

白雪霊? 叫我雪灵吧!”(《重生混元道》)

[白雪霊は俯いて自分のつま先を見ていたが、暫くして言った。「先生、私のことを白雪霊と呼ばないでくれませんか? 雪霊と呼んでください!」]

- (23) “比起那个什么清风，我更想知道凯帝斯最近在忙些什么，**你可以**给我一个满意的答案吗?”“无可奉告!”昼炎没有丝毫的犹豫。(《狙击王》)

[「あの清風とかいう奴のことより、私をもっと知りたいのは凱帝スが最近何をしているかだ。私に満足 of いく答えをくれないか?」「答えられない。」昼炎は少しも躊躇わなかった。]

3.3 <意向> 行為者:話し手 容認の向き:話し手→話し手

聞き手にとって有益であろうと考えられる行為を申し出る表現であり、話し手自身が行為者として、自分自身の行為を容認できることを表明することで、自らの<意向>を控えめに伝える機能である。例(24)は、(勉強が)分からないと言う聞き手に対し、話し手は「復習の手伝いをする」ことに何ら差し支えないと自らの行為の実現を容認するものであり、「必要とあらば私がお手伝いしますよ」と控えめに申し出る表現である。上でみた<依頼>における行為が話し手にとっての有益性を基盤としているのに対し、<意向>における行為は聞き手にとっての有益性を基盤としている点に留意されたい。

- (24) 有很多地方弄不清楚。——**我可以**帮你复习。

[分からないところが沢山あるのですが。——私が復習を手伝いましょうか。]

- (25) 到时候**我们**可以跟老板商量一下待遇问题。

[その時になったら私たちは待遇問題についてボスと相談しましょう。]

- (26) “啊，你是个老实人。要真是老实人的话，**我**可以把日记全都给你。你不会笑话我吧。”(《雪国》)

[「ねえ、あんた素直な人ね。素直な人なら、私の日記をすっかり送ってあげてもいいわ。あんた私を笑わないわね。」](『雪国』)

3.4 <勧め> 行為者:聞き手 容認の向き:話し手→聞き手

例(27)～例(29)では、行為者は聞き手であり、容認の向きは話し手から聞き手に及んでいる。その点においては上でみた<許可>と同じ意味構造を有しているものの、聞き手によ

る事態の実現を話し手が単に容認するだけでなく、積極的にその事態を実現するよう要請する点において〈許可〉とは大きく異なる。例えば、例(28)からは「頤和園に行く」という行為が聞き手にとって有益であり、当該行為の実現が望ましいとする話し手の肯定的な評価が読み取れるが、そのような評価を聞き手に伝えるということは、即ち当該行為の実行を促すことに他ならない。

- (27) **你**要觉得有意思，可以去看看。(楊凱榮 2011)
[もし面白いと思うなら、行って見てみるといいよ。]
- (28) 如果**你**去北京的话，可以去颐和园，那里有山有水，风景优美极了。
[もし北京に行くなら、頤和園に行くといいですよ。あそこは風景が豊かで、景色が美しいからね。]
- (29) “我想**你**可以再到其他文艺宣传队去试试，凭你的天赋，你会找到希望的……”
郝队长避开正面的回答，亲切而委婉地劝说着谭静。(《轮椅上的梦》)
[「他の文芸工作隊に当たってみたらどうだろう？君の才能があればたぶん…」
隊長は正面から答えるのを避け、なぐさめ顔で譚静に勧めた。]
- (『車椅子の上の夢』)

次の例(27)'に示すように、例(27)の“可以”は文字通り「差し支えない」ことを表す“无妨、不妨”に置き換えることが可能であることから、この〈勧め〉の用法は“可以”の中核的意義から拡張したものであり、客体の属性表現としての〈価値〉用法⁴とは一線を画するものであることが分かる。

- (27)' 你要觉得有意思，{不妨/??值得}去看看。
[もし面白いと思うなら、行って見てみるといいよ。]

4. 〈許可〉と〈勧め〉のはざま

4.1 評価のモダリティと行為要求

⁴ 本論文の第2章2.2節を参照。

このようなある事態が実現することに対する話し手の評価的な捉え方(必要/許可・許容/不必要/不許可・非許容)を表すものを「評価のモダリティ」⁵と言う。例えば、例(30)は「安静にする」という事態に対する話し手の「必要だ」という評価を表しており、例(31)は「本を自由に読む」ことに対する話し手の「許容できる」という評価を表している。例(31)の「でもいい」に代表される日本語の〈許可・許容〉がこれまでモダリティの観点から取り上げられてきたのに対し、中国語の“可以”はもっぱら可能範疇において取り上げられてきた。

(30) 風邪をひいているときは、安静にしなくてはいけない。

(31) この部屋の本は自由に読んでもいいですよ。

(日本語記述文法研究会編 2003:91)

この評価のモダリティに属するほとんどの形式は、使用条件が整えば、即ち当該事態が①制御可能な、②未実現の、③聞き手による行為であれば、聞き手に対する〈許可〉、〈勧め〉、〈忠告〉といった「行為要求」として機能する⁶ことが指摘されている(高梨 2010、王其莉 2015 等)。

「行為要求」とは、聞き手が行為を実現すること(または、実現しないこと)を求めたり、容認したりする機能であるが、これを下位分類する際に重要な観点の一つに、その行為の実現が誰にとって有益かということが挙げられる。つまり、〈命令〉、〈禁止〉、〈依頼〉といった伝達機能が話し手にとっての有益性を基盤としているのに対し、〈許可〉や〈勧め〉は聞き手にとっての有益性を基盤としており、このような特徴は前章における“可以”の各種伝達機能においても確認されている。

4.2 話し手の強制力vs.聞き手の決定権

このように、評価のモダリティ形式における行為要求は、基本的に聞き手にとっての有益性を基盤とするものであり、〈許可〉、〈勧め〉、〈忠告〉などが含まれるが、そのいずれを表すかは「話し手の強制力」と「聞き手の決定権」の均衡によって決定される。例えば、例(32)のように「もう帰ってもいいよ」という場合、「帰るか帰らないか」は聞き手の判断に委ねられて

⁵ 「評価のモダリティ」に関する詳しい議論については、日本語記述文法研究会編 2003、高梨 2010 等を参照されたい。

⁶ このような機能は認識のモダリティには見られず、評価のモダリティの特徴であると高梨 2010 は指摘している。

いる(即ち「聞き手の決定権」が優勢である)が、例(33) < 例(34) < 例(35) < 例(36)の順に話し手の強制力(聞き手に対する要請力)が強くなり、これとは反対に聞き手の決定権は相対的に弱くなる。

	話し手の強制力	聞き手の決定権
(32) もう帰 <u>って</u> もいいよ。 <許可>	弱	強
(33) もう帰 <u>ると</u> いいよ。 <勧め>	↓	↑
(34) もう帰 <u>ったほう</u> がいいよ。		
(35) もう帰 <u>るべき</u> だよ。	↓	↑
(36) もう帰 <u>らない</u> といけないよ。 <忠告>		
	強	弱

(高梨 2010:192 よりまとめ)

表4 「行為要求」における話し手の強制力と聞き手の決定権

従って、「評価のモダリティ」と「行為要求」の観点から例(37a)と例(37b)を観察した場合、両者の異同は次のようにまとめることができる。

助動詞“可以”が表す<許可>と<勧め>は、いずれも聞き手にとっての有益性を基盤とする行為要求型の表現であるが、<許可>が聞き手の行為の実現を話し手が容認することを伝える機能であり、聞き手に対し積極的に行為の実現を促すものではない[例(37a)]のに対し、<勧め>は当該行為の実現が聞き手にとって有益であると評価するからこそ、容認だけに留まらず、その行為を実現するよう聞き手に促す機能を持っている[例(37b)]ことが分かる。

(37)a 你可以进来。 [入ってもいいですよ。]

b 你可以跟他商量一下。 [彼と少し相談するといいですよ。] (例(10ab)再掲)

5. “可以”の語用論的特徴

このような特徴を持つ<勧め>の用法は、勢い聞き手への配慮表現(politeness)として機能するようになる。

次の例(38a)の“可以”は<勧め>を表すが、同じく話し手の評価を表す語に“应该”[べきだ]がある。“应该”はその事態が妥当であることを基本的意味とするが、例(38b)のように聞き手の行為について用いられると、<勧め>として機能する。⁷つまり、例(38a)、例(38b)はいずれも聞き手にとって有益な助言・提案をしているのだが、例(38a)は可能性の一つとして「彼と相談する」ことを勧めており、その提案を受け入れるか否かはあくまでも聞き手に委ねられているのに対し、例(38b)は「彼と相談する」ことが妥当であり、そうする必要があると強く聞き手に要請している。このように、例(38a)からは聞き手の意向を尊重する話し手の配慮が読み取れることから、“可以”を用いた<勧め>は聞き手に対する配慮表現として機能していることが分かる。

(38) a 你可以跟他商量一下。(例(10b)再掲)

[彼と少し相談するといいですよ。]

b 你应该跟他商量一下。

[彼と少し相談するべきだ。]

このような語用論的特徴は、以下の表現例からも観察される。次の例(39a)では“有什么需要”[もし必要であれば]と条件付き譲歩が示されており、「(あなたさえ差し支えなければ)私に相談してくれても構わない」と聞き手の意向を尊重した、ごく控えめな提案がなされている。一方、例(39b)からは「当然私に相談するべきだ」という聞き手に対する強い要請力が読み取れ、その要請に応えない聞き手に対する不平不満が表現されている。このような文脈において“可以”を用いることはできない。

(39) a “嗯，好吧，有什么需要，你可以跟我商量。”陈阳老师说完，伸手握握曹钊良的手臂，笑着说：“你家人从来没有给你补补身体吗？怎么那么瘦，看起来，就好像一个初中生。”(《暗地繁华》)

[「うん、いいでしょう。もし何か必要があれば、私に相談してくれたらいいからね。」陳陽先生はそう言い終えると、手を伸ばして曹釗良の腕を軽くつかむと、笑

⁷ 日本語では、その事態が妥当であるという話し手の評価を表す表現に「べきだ」があるが、“应该”と同様、聞き手の行為について用いられると<勧め>として機能することが指摘されている(日本語記述文法研究会編 2003: 106)。例えば、「田中はみんなに迷惑をかけたんだから、ちゃんと謝罪すべきだ。」等。

いながら言った。「君は家の人に栄養をつけてもらっていないのか？こんなに痩せてて、まるで中学生のようだな。」]

b “不成，绝对不能让这件事情发生！唐衍，你这个狼心狗肺的家伙，不管怎么说我都是为了你来到这里的，就算不说这个，就算我是你妹妹的话，婚姻大事，你也应该跟我商量一下啊！可恶！居然把我甩在旁边，自己风流快活！我秦禹绝对不允许！”（《戏唐》）

[「ダメよ、そんなこと絶対にさせないから！唐衍、あなたなんて恩知らずなの、私がここに来たのは全部あなたのためだというのに、たとえそんなこと言わないとしても、たとえ私があなたの妹であったとしても、結婚なんて一大事、私に一言相談すべきじゃないの！ムカつく！私のことを放っておいて、自分だけ色恋楽しんで！私、絶対に許さないから！]

同様に、次の例(40)の応答としては“可以”、“能”は共に用いることができるが、やはりニュアンスが異なる。第3章3.3節で考察したように、例(40a)では“可以”を用いて、話し手自身が自分自身の行為を容認できることを表明することで、自らの<意向>を控えめに伝えるのに対し、例(40b)の“能”は当該行為が実現可能であることを表明することで、自らの<意向>を積極的に申し出る表現となる。

(40) 我也想学包饺子。[私も餃子を作るのを習いたいです。](例(9)再掲)

a 我可以教你。[私が教えてもいいですよ。]

b 我能教你。[私が教えてあげますよ。]

また、次の例(41a)では“可以”と共に“也许”[もしかしたら]や“一点”[少し(だけ)]が用いられており、これらが更に控えめな<意向>の表出に一役買っている。一方、例(41b)では“希望”[望む]が重ねて用いられており、希望、願望の実現を望む発話者の意思が読み取れる。このような文脈においては、控えめな<意向>を表す“可以”よりも、事態の実現を望む“能”こそが相応しいのである。

(41) a 轻轻地抱住了雪婷在她耳边关心地说：“真的那么严重吗？和我说说吧，也许我可以帮你分担一点。”（《尘世仙侠》）

[雪婷をそっと抱くと彼女の耳元で優しく言った。「本当にそんなにひどいの？私に話してみてよ、もしかしたら少しくらい分かち合えるかもしれないし。」]

- b 不知道这两个月有多少事情把你累成这样。你消极了，好像在逃避所有问题，不愿面对。我希望你能好起来，希望倒霉的事不要再缠着你，希望我能帮你分担一些事。(微博)

[この 2 か月でどれほどの事があなたをこんなに疲れさせてしまったのだろうか。あなたはネガティブになって、あらゆる問題から逃避し、対峙したくないようだが、私はあなたに元気になってほしい。不運がこれ以上あなたに付きまとうことがないよう願っているし、私があなただけの代わりに少しでも負担できることを願っている。]

[参考文献]

- 王其莉 2015 「日本語の「てもいい」と中国語の“可以”」, 『国語学研究』 第 54 号, pp.105-120, 東北大学文学部『国語学研究』刊行会。
- 渋谷勝己 1986 「可能表現の発展・素描」, 『大阪大学日本学報』 5。
- 高梨信乃 2010 『評価のモダリティ 現代日本語における記述的研究』, くろしお出版。
- 武信彰 1999 「“可以”の発話内行為的用法について——辞書記述の「規格化」の視点から」, 『中国語』 1999-6 月号, 第 473 号, pp.27-32, 内山書店。
- 寺村秀夫 1982 『日本語のシンタクスと意味 I』, くろしお出版。
- 日本語記述文法研究会編 2003 『現代日本語文法 4 モダリティ』, くろしお出版。
- 益岡隆志 2002 「判断のモダリティ—現実と非現実の対立—」, 『日本語学』 2002-2 月号, vol.21, pp.6-16, 明治書院。
- 益岡隆志 2007 『日本語モダリティ探求』, くろしお出版。
- 森田良行 1989 『基礎日本語辞典』, 角川書店。
- 山梨正明 1995 『認知文法論』, ひつじ書房。
- 楊凱榮 2011 「能力・状況・技能を表す助動詞 —中国語の可能表現」, 東京大学言語情報科学専攻編『言語科学の世界へ』, pp.61-76, 東京大学出版会。

[教科書出典]

『中国語つぎへの一步』, 尹景春・竹島毅著, 白水社。

[言語コーパス]

『BCC 汉语语料库』, 大数据与语言教育研究所 (<http://bcc.blcu.edu.cn/>), 总字数约 150 亿字, 包括: 报刊(20 亿)、文学(30 亿)、微博(30 亿)、科技(30 亿)、综合(10 亿) 和古汉语(20 亿)等多领域语料。

『中日対訳コーパス』, 北京日本学研究中心, 2003 年。

